

令和3年度 学校評価シート

学校名： 和歌山県立紀北農芸高等学校

学校長名： 茂田 嘉朗

めざす学校像 育てたい生徒像	<ul style="list-style-type: none"> 農業教育を通じて、「生徒を支える学校」であるとともに、「自己の将来展望をしっかりと持つ生徒を育成する学校」として地域に貢献する 豊かな勤労観や職業観を身につけさせ、進路を自ら選択・決定する力を育むとともに、農業の担い手や関連産業で活躍できる人材を育成する。 地域や農業関連機関等と連携し、広がりのある教育の構築により、生徒の活動性加藤を地域に還元するなど、紀北地域の農業教育の中心的な機能を果たす。
-------------------	---

中期的な目標	<ul style="list-style-type: none"> 紀北地域の農業教育拠点校としての専門教育の推進はもちろん、地域の全日制高等学校に進みたい生徒の学びの場として、しっかりと生徒を支える学校づくりを推進する。 農業高校として地域との連携を深め、生産流通、施設園芸、環境工学のそれぞれの学科の一層の専門性特化と情報発信に努める。 「規律規範の確立」「豊かな心育成」「学力の育成」による人材育成。
--------	---

達成	A	十分に達成した。(80%以上)
	B	概ね達成した(60%以上)
	C	あまり十分でない。(40%以上)
	D	不十分である。(40%未満)

し、精選した上で、具体的かつ明確に記入する)	2 学力の向上と進路意識の高揚
	3 豊かな人間性の育成 (生徒指導・人権教育・特別支援・教育特別活動の充実)

学校評価の結果と改善	<ul style="list-style-type: none"> 学校ホームページ等によって公表する。 学校運営協議会、PTA 役員会等関係部署に提出する。
------------	--

(注) 1 重点目標は3～4つ程度設定し、それらに対応した評価項目を設定する。 2 番号欄には、重点目標の番号を記入する。 3 評価項目に対応した具体的取組と評価指標を設定する。
 4 年度評価は、年度末(3月)に実施した結果を記載する。 5 学校関係者評価は、自己評価の結果を踏まえて評価を行う。

自 己 評 価					学 校 関 係 者 評 価		
重 点 目 標					年 度 評 価 (2 月 2 2 日 現 在)		
番 号	現 状 と 課 題	評 価 項 目	具 体 的 取 組	評 価 指 標	評 価 項 目 の 達 成 状 況	達 成 度	次 年 度 へ の 課 題 と 改 善 方 策
1	<ul style="list-style-type: none"> 農業の専門高校として、一層、特色を生かした教育を充実させる。 3学科の特色を生かした教育を充実させる。 実習等、農業科目の学習により社会性・公共心・協調性を育む。 生徒の農業科目に関する興味関心を高め、専門知識の習得に前向きに取り組ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> 農業高等学校として専門性を生かした教育活動が展開されているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域連携事業(フラワーロード、交流授業等)により地域等と連携が図れたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業を計画的に実施し、年間5回以上取り組めたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域と連携した取組、販売実習等を計画的に実施することが出来た。 平板測量、フラワーアレンジメント協議会、マイコンカー競技では、県を代表して全国大会に出場することが出来た。 外部講師を招き、実演指導を受け、最新の技術を学ぶ機会を得た。 臨機応変に授業を見直した 	A	<ul style="list-style-type: none"> 農林大学校や地域の農家の方たちと連携した企画をより充実させる。 農業クラブで活動している生徒の割合を増やすことが出来るよう広報活動を強化する。 地域、企業と連携した企画を増やすことで、農業に興味関心を更に高めるようにする。
			<ul style="list-style-type: none"> 農業クラブ活動の活性化 	<ul style="list-style-type: none"> 大会への積極的参加。 			
			<ul style="list-style-type: none"> 最新の知識技術に十分留意して農業教育を推進する。 資格・検定取得の推奨 	<ul style="list-style-type: none"> 最新の知識技術に留意した学習が出来たか。 資格・検定取得率向上 			
			<ul style="list-style-type: none"> 授業改善やコース制により生徒の興味関心を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業内容や進度等の見直しに取り組んだか。 			
2	<ul style="list-style-type: none"> 農業を学びたい、クラブ活動、全日制課程希望など様々な目標から本校を選択した生徒が在籍している。 基礎学力が十分に身につけていない生徒が在籍しており、授業改善や学び直し等による基礎学力の定着が必要である。 入学した生徒に自己肯定感を育み、社会で活躍できる人材の育成を目標としている。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の定着に向けた取り組みや工夫。 生徒が達成感や充実感を味わえる工夫 	<ul style="list-style-type: none"> 研究授業(公開授業)や授業参観をととした授業改善を推進 基礎学力の充実や自ら学ぶ姿勢の育成を視野に入れた授業工夫。 	<ul style="list-style-type: none"> 教員が一人一回以上、研究授業(公開授業)にとり組めたか。 グループ学習や言語活動を取り入れた授業等、工夫できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 研究授業や公開授業を教員全員で取組ことが出来なかった。 朝学を通じて、基礎学力を向上させることが出来た。 新型コロナ感染症予防のため、インターンシップを実施することが出来なかった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力定着に向け、生徒が分かる、出来ると実感できるような授業をICTを活用して実施する。 生徒の学力に応じた教材を継続的に活用することで、一人ひとりの学力の向上を目指す。 キャリア教育(外部講師、企業連携、インターンシップ等)を積極的に行い、社会に活躍する意識を高めさせる。
			<ul style="list-style-type: none"> 学び直しの内容や「朝学」を充実させる。 中学までの学習理解が十分でないことから、基礎から丁寧な指導に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 学び直し教材をとり組んでいるか。 高校卒業時までに、社会で通用する基礎学力を獲得できているか。 			
			<ul style="list-style-type: none"> インターンシップ等によるキャリア教育の充実。 	<ul style="list-style-type: none"> 全員に面談や事前事後指導が徹底できたか。 			
			<ul style="list-style-type: none"> 身だしなみ指導を通じて規範意識を理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が指導の必要性を理解できているか。 			
3	<ul style="list-style-type: none"> 特別な支援が必要な生徒を本校で多く受け入れている状況がある。 高等学校における目的意識や工学意欲が希薄で、家庭環境に問題を抱える生徒が多い。 コミュニケーション能力や自己肯定感に欠ける生徒も多い。 人権の意識にも希薄な面が見受けられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 規範意識、人権意識の向上への取組。 生徒の状況把握と情報共有。 特別活動等により、コミュニケーション能力や自己肯定感を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> 身だしなみ指導を通じて規範意識を理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が指導の必要性を理解できているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 身だしなみ指導を徹底することで生徒の規範意識を向上させることが出来た。 いじめについてのLHRを定期的に行い、またアンケート結果をうけ、丁寧な指導を実施している。 学年会、学校いじめ防止委員会、ケース会議を必要に応じて開催し、情報を共有して対応した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> あいさつ運動、身だしなみ指導、SNSの活用指導を通じて、生徒の規範意識、人権意識を向上させる。 全職員がSC・SSW等と連携しながら、生徒の変化に気づき、早期に対応できる組織と現職教育等で人権意識を高めさせる。
			<ul style="list-style-type: none"> 人権LHRやいじめについてのアンケートを実施。 	<ul style="list-style-type: none"> アンケート結果を適切な対応に生かされたか。 			
			<ul style="list-style-type: none"> 生徒の状況を把握して、生徒指導にあたっているか。また、情報共有を進めているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員が、常にカウンセリングマインドを意識しているか。 全職員の情報共有。 			

学校関係者評価
令和4年 2月 22日 実施
学校関係者からの意見・要望・評価等
<ul style="list-style-type: none"> 非常に様々な創意工夫を凝らした取組を行っていただいております。 スクールポリシーの策定により学校の特色を明確に出来た。 県外からの生徒の受け入れは新しい試みであり、さらなる充実を期待したい。 かつらぎ町との連携を強化し、地元の学校としての意義を高めていただきたい。 和歌山農林大学校との連携、一環教育を推進していただきたい。 野球、ハンドボール、測量など特色のある活動をアピールし生徒の自信となるよう期待したい。 地域に貢献し、地域から愛される学校になっていただきたい 小学校、中学校への取組については、親をどれだけ農芸高校側に取り組むことが大事だと思います。 農業従事者の減少と高齢化、それに伴う耕作放棄地が増加しています。一人でも多く農業に興味を持ち携わってくれることを期待しています。